

令和6年度使用小学校教科用図書
に関する調査報告書

教科名 理 科

(様式1)

教科用図書調査に関する報告書

教科	理科
----	----

発行者 略称	発行者 番号	教科書の 記号・番号	教科書名	調査結果の概要
東書	2	理科 307 407 507 607	新編 新しい理科 3 4 5 6	<ul style="list-style-type: none"> ・「問題をつかもう」「問題」「予想しよう」「計画しよう」「実験・観察」「考察しよう」で問題解決過程が示されている。「考察しよう」では、考え方のヒントが太字で明確に提示されている。 ・レッツトライの活動が導入となるように工夫されている。 ・児童同士の対話例などを随所に掲載し、協働的に問題解決しようとする態度の育成ができるようにしている。 ・二次元コードによるコンテンツが豊富である。 ・「たしかめよう」のページに、「考えよう」として言語力や思考力を育てる問いが用意されている。 ・実験の危険性が示されている。(やけどに注意等) ・実験の準備物がしっかり掲載されている。 ・巻末に実験器具の使い方を個別に表記している。 ・6年、唾液の実験は綿棒とポリ袋を使う配慮がされている。 ・全体的に、写真や文字が大きく見やすい。 ・サイズが大きいため、机上が狭くなる。 ・兵庫県に関する内容で、兵庫県南部地震の記載がやや少ない。

発行者 略 称	発行者 番 号	教科書の 記号・番号	教科書名	調査結果の概要
大日本	4	理科 308 408 508 608	新版 たのしい理科 3年 4年 5年 6年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元末の「たしかめよう」では、ほとんどが説明する問題であり、学んだことを説明しながら振り返る機会となっている。 ・ 単元の導入部分では、身近な事象や経験したことがあるような事象が題材となっており、児童の関心が高まりやすい。 ・ 「問題を見つける」「問題」「予想」「計画」「実験・観察」「考察」で問題解決過程が示されている。 ・ 学習をまとめた後で、「りかのたまてばこ」や「サイエンスワールド」を読んだり、学んだことを生かす活動「深めよう」を行ったりして、学習を深めることができるように工夫している。 ・ 二次元コードが各ページの下部に統一して配置されており、活用しやすい。 ・ ものづくりの事例が豊富である。 ・ 巻末に実験器具の使い方を個別に表記している。 ・ 6年「ものの燃え方」では、石灰水の使用時に攪拌棒の使用が記載されており、安全面への配慮がある。 ・ 6年「水溶液の性質」では、塩酸で溶かす金属がアルミニウムのみとなっている。 ・ 6年、葉のデンプンを調べる実験は、エタノールによる方法だけの記載のため、難度が高くなっている。 ・ 6年、唾液の実験はストローで直接唾液を入れるようになっている。 ・ 総ページ数が多い。 ・ サイズが大きい。 ・ 兵庫県に関する内容は、6年と5年で各1箇所のみとなっている。

発行者 略 称	発行者 番 号	教科書の 記号・番号	教科書名	調査結果の概要
学 図	1 1	理科 309 409 509 609	みんなと学ぶ 小学校 理科 3年 4年 5年 6年	<ul style="list-style-type: none"> ・「問題をみつけよう」「問題」「予想・計画」「実験・観察」「考察」で問題解決過程が示されている。 ・考察の表記はあるが、大きく学習活動として提示されていない。 ・「ふりかえろう」のページで、学習内容を説明したり、理科的な用語をたしかめたりできるように工夫されている。 ・ノートにまとめた形式が適宜掲載されており、児童のノートづくりの補助となる。 ・二次元コードは随所に掲載されているが、内容がわかりにくい。 ・防災に関する内容が多く取り上げられており、学習と日常生活を関連付けられるように工夫されている。 ・実験と結果が同ページ（6年16ページ）や見開きページ（6年38, 39ページ）に掲載されていることがあるため、実験方法を確認する際に、どのような結果になるかを児童が目にしてしまう。 ・実験の危険性の表記がしっかりされている。 ・巻末に実験器具の使い方を個別に表記している。 ・6年、唾液の実験ではストローで直接唾液を入れるものとなっている。 ・3年「チョウを育てよう」の配置時期が遅めにしている。 ・5年は、「ふりこのきまり」から学習が始まっている。条件を制御しながら考えるという5年の理科学習からすると、児童の過去の栽培経験などから考えることができる発芽実験から始まる方が学習しやすい。 ・写真などの資料は豊富である。 ・本文に明朝体を使用されており、やや読みにくい。 ・兵庫県に関する内容は、6年の「火山の噴火と地震」単元のみとなっている。

発行者 略 称	発行者 番 号	教科書の 記号・番号	教科書名	調査結果の概要
教 出	1 7	理科 310 410 510 610	みらいをひらく 小学理科 3 未来をひらく 小学理科 4 5 6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 巻頭に前年度の学習の要点がまとめられており、ふり返りがしやすい。 ・ 学び合いのための言葉が具体的に掲載され、言語活動に生かすことができる。 ・ キャラクターの対話例などを随所に掲載し、対話的・協働的に問題解決しようとする態度の育成ができるようにしている。 ・ 「見つけよう」「問題」「予想しよう」「計画しよう」「実験・観察」「結果から考えよう」で問題解決過程が示されている。 ・ 「結果から考えよう」の考察する場面が明確になっている。 ・ 「たしかめよう」の問題には、参考になるページが記載され、個人で学習をふり返るような学習活動にも比較的容易に取り組むことができる。 ・ 二次元コードがやや少ない。 ・ 理科的用語は黄色でマーカーされており、目につきやすく意識しやすくなるように工夫されている。 ・ 実験の準備物の説明が詳しく、教師や児童が準備しやすくなっている。 ・ 実験の危険性の表記がやや少ない。 ・ 巻末に実験器具の使い方を個別に表記している。 ・ 6年、唾液の実験ではストローで直接唾液を入れるものとなっている。 ・ 6年「水溶液の性質」では、塩酸で溶かす金属がアルミニウムのみとなっている。 ・ 6年11ページの臓器のイラストは、これまでになかった斬新なものとなっており、人体模型がなくても学習しやすいものとなっている。 ・ 兵庫県に関する内容は、6年の「大地のつくり」と3年15ページの手塚治虫のみとなっている。

発行者 略 称	発行者 番 号	教科書の 記号・番号	教科書名	調査結果の概要
啓林館	6 1	理科 312 412 512 612	わくわく理科 3 4 5 6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予想・計画や考察の場面では、理科の見方・考え方を働かせた対話的な学習活動が例示され、協働的に問題解決しようとする態度の育成や深い学びにつながる。 ・ 問題解決の過程を「問題をつかもう」「問題」「予想と計画」「実験・観察」「考察しよう」で示されている。「考察しよう」では、考え方のヒントが太字で明確に提示されている。 ・ 「たしかめよう」のページで、基礎的な学習内容のたしかめができる。また、「活用しよう」では、科学的な思考を深めることができる。 ・ 学習のポイントとなる事項に「見方・考え方マーカ―」のアンダーラインがあり、ふり返りやまとめ、深い学びにつながる工夫がされている。 ・ 全体的に二次元コードによるデジタルコンテンツが充実しているとともに、ICTの活用例示がされており、指導者や児童がICT機器を使いやすい工夫がされている。 ・ 単元ごとに発展的な内容や日常生活との関連を図る内容の事例が豊富に掲載されている。 ・ 実験の様子はほぼカラー写真で紹介されている。 ・ 実験器具の使い方が単元中に記載されている。 ・ 全体的に安全に配慮した取り組みやすい実験が掲載されている。また、準備物も丁寧に記載されており、実験や観察に取り組みやすくなっている。 ・ 6年の唾液の実験は、綿棒と容器を使用するもので、児童にとって抵抗感が少なく簡単にしやすい配慮がされている。 ・ 全体的に文字がはっきりしており、見やすい。 ・ 6年「大地のつくりと変化」では、兵庫県南部地震のことが多く取り上げられている。

(様式2)

教科用図書調査に関する報告書

理科

観点別評価

「◎」優れている

「○」標準的

「△」やや劣る

選定の観点	選定の視点	東書	大日本	学図	教出	啓林館
学習指導要領との関連	1 学習指導要領に示されている理科の目標達成に結び付く内容になっているか。	○	○	○	○	○
	2 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた工夫がされているか。	◎	◎	○	○	◎
	3 「知識及び技能」の習得と「思考力・判断力・表現力等」の育成をバランスよく図るための工夫がされているか。	○	○	○	○	○
	4 言語活動の定着を図るための配慮がなされているか。	◎	○	○	◎	◎
	5 学習への興味・関心を高めるとともに、学びを深めるために、ICT機器や二次元コードから参照できるデジタルコンテンツを適切に活用することができる配慮がなされているか。	◎	◎	○	△	◎
	6 SDG s など、今日的課題が取り上げられ、児童が興味・関心を持ち、主体的に学ぶとともに発展的な学習も行うことができる工夫がされているか。	○	○	○	○	○
内容	1 自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、自然の事物・現象についての理解を図ることができる工夫がなされているか。	○	○	○	○	○
	2 日常生活や他教科との関連を図るための配慮がなされているか。	○	○	◎	○	◎
	3 比較、関係付け、要因や規則性・関係の推論など、問題解決の能力を育成する工夫がなされているか。	○	○	○	○	◎
	4 自然に親しむ活動や体験的な活動を取り入れ、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を育成する工夫がなされているか。	○	○	○	○	○
	5 論理的思考力を身につける工夫がなされているか。	◎	○	○	○	◎
	6 実験・観察等で事故の防止に十分留意した内容となっているか。	○	◎	○	○	◎
構成・分量	1 内容の量と学習時間が適切に配当されているか。	○	○	○	○	○
	2 児童の発達段階に即し、系統的、発展的に構成されているか。	○	○	○	○	○
表記・表現	1 表記や表現について、文書や挿絵、写真等の使用が適切であるか。	◎	○	◎	○	◎
	2 文字の大きさ、字間、行間などは適切であるか。	◎	○	○	○	◎
	3 ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、色の使用、紙面の構成などについて、配慮されているか。	◎	○	△	○	◎